



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	心理的エンパワメントに関する実証研究 [論文内容及び審査の要旨]
Author(s)	吉野, 有助
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(経営学)
Dissertation Number	甲第14478号
Issue Date	2021-03-25
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/81819
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/
Type	doctoral thesis
File Information	Yusuke_Yoshino_review.pdf, 審査の要旨



学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称：博士（経営学）

氏名 吉野有助

審査委員	主 査 教授	岩田 智
	副 査 准教授	相原 基大
	副 査 教授	松尾 睦

学位論文題名

心理的エンパワーメントに関する実証研究

経済のグローバル化や競争環境の変化を背景に、最前線の従業員から経営幹部まで、全従業員の知識、思考力、行動力、創造力のすべてを活用・連動させる上で、心理的エンパワーメントが重要な役割を果たすといわれている。「個人が自身の仕事をコントロールしていると感じるのに必要な一連の心理的状态」と定義される心理的エンパワーメントは、従業員のウェルビーイングや業績にポジティブな影響を与えることが明らかになっているが、先行研究では、心理的エンパワーメントの決定要因に関しては、状況的要因に比べて個人的要因が検討されることが少ないという問題がある。また、心理的エンパワーメントの各次元が結果要因に与える影響、および次元間の関係については十分に解明されていない。こうした問題を踏まえ、本研究は、状況的・個人的な決定要因が心理的エンパワーメントの各次元に与える影響を検討するとともに、各次元間の関係を探索的に明らかにすることを目的としている。

本論文は、6章から構成されている。第1章では、研究を進める前提となる背景や問題意識、心理的エンパワーメント研究の現状や課題を踏まえて、研究目的が説明されている。

第2章では、心理的エンパワーメントの概念と測定尺度を確認し、心理的エンパワーメントの決定要因、結果要因に関する定量的な実証研究を整理することを通して、リサーチギャップが特定されている。その上で、「学習志向は、心理的エンパワーメントの4次元を媒介して、どのような形でワーク・エンゲージメントを高めるのか」「状況的要因と個人的要因は、どのように関係し合いながら心理的エンパワーメントに影響を与えているのか」「心理的エンパワーメントの4次元は、相互にどのように関係しているのか」という3つのリサーチ・クエスチョンが提示されている。

第3章では、上記のリサーチ・クエスチョンを検討するための定量的分析および定性的分析の方法が説明されている。定量的分析に関しては、急性期病院に所属する看護師427名に対する質問紙調査が行われたこと、定性的分析に関しては、大手シティホテルチェーンの従

業員 14 名に対するインタビュー調査が行われたこと、および分析手法であるグラウンデッド・セオリー・アプローチが説明されている。

第 4 章は、看護師を対象とした質問紙調査データを共分散構造分析によって検討したセクションである。分析の結果、学習志向がワーク・エンゲージメントを直接的に促進していること、心理的エンパワーメントの 4 次元のうち、学習志向とワーク・エンゲージメントを媒介していたのは「意味」と「影響」の次元であることが明らかにされている。特に、心理的エンパワーメントの意味次元がワーク・エンゲージメントに強い影響を与えていたことが指摘されている。

第 5 章は、ホテル従業員に対するインタビュー調査データをグラウンデッド・セオリー・アプローチによって分析したセクションである。分析の結果、心理的エンパワーメントに影響を与える 11 のカテゴリーが抽出され、カテゴリー間の関連性が分析されている。具体的には、①「あこがれ・夢」→「接客志向性」→「サービスの工夫」→「顧客との関係性」というパスが、仕事の意味を形成する主要なパスであること、②心理的エンパワーメントの 4 次元が影響し合いながらエンパワーメント・プロセスが形成されていること、③個人的要因と状況的要因が組み合わさりながら、中核カテゴリーである「サービスの工夫」を可能にしていたことが明らかにされている。

第 6 章では、定量的・定性的分析を通して得られた発見事実を整理した上で、理論的・実践的インプリケーションが提示されている。

審査委員会では、本論文の主たる貢献は次の 2 点であることについて合意が得られた。第 1 に、定量的・定性的分析に基づき、心理的エンパワーメントの意味次元の重要性を示し、「学習志向」をはじめとした様々な要因が意味次元を規定していることを発見した点である。第 2 に、心理的エンパワーメントの 4 次元は、それぞれが独立的に働くのではなく、連動し合って最終的な成果に至ることを示した点である。こうした発見は、従来検討されることが少なかった個人的な規定因を特定するだけでなく、心理的エンパワーメントの形成プロセスを解明するものであり、先行研究に対して多大な貢献をしていると考えられる。

ただし本研究は、主に 2 つの課題を抱えていることも指摘された。第 1 に、定量研究の対象が看護師であり、定性研究の対象がホテル従業員であるため、発見事実の一般化について限界がある点である。第 2 に、心理的エンパワーメントの形成プロセスモデルが定量的に検証されていない点である。

しかし、限定的なサンプルは多くの研究が抱える課題であり、また、心理的エンパワーメントの形成プロセスモデルの定量的な検証は、今後の研究課題として扱うべきであると考えられる。

以上の点を踏まえ、本論文は、学術研究として高い水準に達しており、審査員全員一致で、博士（経営学）の学位を授与するに値すると判断した。